

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (数学)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>標準コースは、学習内容の定着と理解力も、順調に進んでいる。</p> <p>基礎コースでは、基礎学力の差異から、かけ算の九九や、小数・分数計算から、やり直す部分もあり、全体的な定着に若干の難が生じている。どうしても、授業中で特に習熟の遅い生徒に対する個別の対応は、時間的に限界があり、十分といえない状況である。</p>	<p>標準コースでは、発展問題や課題を随時用意する形を、今後取っていく。</p> <p>基礎コースでは、基礎の中でも学習意欲と理解力の高いものを、標準に上げていくことと、併せて、基礎の基礎を定着させる、二重構造を模索していく。</p> <p>そのためにも、技能を確認の課題を実施していく。</p>	<p>副教材等の課題学習で、A（基本）問題B（標準～発展）問題を利用しながら、コースや個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>また、基礎コースでは、例題も問題として解かせ、例題の解答を解答例として活用し、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p> <p>さらに、適宜、発展的な課題を入れ込んでいく。</p>
第二学年	<p>基礎と標準から、意識の底上げを図るため、標準と発展と言う名称に改め、定期考査後以外にも、コースへの変更を認めていった。</p> <p>発展コースに上がる生徒が多く見られ、逆に標準（基礎）が、数名となり、意欲付けに神経を使ったが、単元途中から、「難しい」部分では、降りてくるなど、フレキシブルかつ自己判断の育成に、扉が開けてきた観がある。</p>	<p>連立方程式では、100問程度の練習問題の冊子を作り、継続的に宿題として、課題学習をさせていった。</p> <p>発展コースは、最後までやりきる者がほとんどであったが、標準コースでは、やりきることが難しい生徒もおり、意欲付けをどのように形成するかに課題が残った。</p> <p>これからは、意欲の歩止まりを崩すことを進めていく。</p>	<p>副教材等の課題学習で、A（基本）問題B（標準～発展）問題を利用しながら、コースや個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>また、基礎コースでは、例題も問題として解かせ、例題の解答を解答例として活用し、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p> <p>さらに、適宜、発展的な課題を入れ込んでいく。</p>
第三学年	<p>クラス分けでは、過去の状況を踏まえ、発展コースの人数が多くなるように調整し、標準コースの生徒への個別対応がより手厚くできるような体制をとった。内容の高度化に伴い、できる・できないの差も拡大し、境界線上の生徒の理解度や集中度の維持が難しい。また、授業中の習熟の遅い生徒に対する個別の対応も、時間的にも限界があり、十分といえない。</p>	<p>計算ミスを起こしやすい箇所を指摘しながら、生徒が正確に問題を解けるよう指導をしていく。できるだけ演習時間を多く確保し、繰り返し学習を行っていく。授業内での生徒の発言の機会を増やしたり、生徒同士が互いに発表したり、教えあったりする場を意図的の設け、刺激を与えることのできる授業環境をつくっていく。毎時間の暗算練習や、宿題による定着度の確認と評価は、今後も続けていく。小テストも計画的に実施していく。</p>	<p>アイ：副教材等の課題学習で、A（基本～標準）問題・B（標準～発展）問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>また、標準コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用したり、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p> <p>ウ：K中ベーシックの利用</p> <p>エ：習熟度別授業</p>